

慢性腎臓病(CKD)診療と医療連携に関するアンケート

アンケートは三部構成

第一部：調査に協力いただく医師、医療機関について

第二部：CKD診療について

第三部：CKD治療における地域連携、病診連携について

下記の質問について、該当するお答えに☑チェックをお願いします。複数回答可の項目もあります。
(文中敬語略)。

第一部 調査に協力いただく医師、医療機関について

ふりがな

--	--	--

1 お名前

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2 ご住所 (右欄にゴム印等を押印していただいても結構です)

〒 _____ (都 道 府 県) _____ 市・郡 _____

_____ (医療機関名)

TEL () _____

FAX () _____

3 ご年齢

20 歳代、 30 歳代、 40 歳代、 50 歳代、 60 歳代、 70 歳以上

4 所属する医療機関

無床診療所、 有床診療所、 病院 (200床未満)、 病院 (200床以上)

5 診療科、専門分野 (複数回答可)

一般内科、 腎臓科 (透析科を含む)、 循環器科、 糖尿病・内分泌科、
 消化器科、 呼吸器科、 神経内科、 脳・神経科、 血液内科、
 膠原病・リウマチ科、 アレルギー科、
 その他 () 科)

6 医師としてのキャリアのなかで腎臓内科の研修歴、職業歴

ない、 過去に経験あり、 現在腎臓専門医である

7 所属する医療圏 (自治体) の規模 (人口)

1000人以下、 1000～5000人、 5000～1万人、 1～5万人、
 5～10万人、 10～50万人、 50万人以上

第二部 CKD診療について

- 1 昨年改訂された「CKD診療ガイドライン2018」(日本腎臓学会編集)については
変更内容を把握している 変更されたことは知っている 知らない
- 2 その「CKD診療ガイドライン2018」を日常診療において
頻繁に利用している 所持するが利用していない 所持しない
- 3 外来で診療するおよそのCKD患者数は1か月あたり
10人未満 10~25人 25~50人 50~100人 100人以上
- 4 診察しているCKD患者の年齢層は(複数回答可)
40歳未満 40~65歳 65~75歳 75歳以上
- 5 CKDはどのように診断していますか?(複数回答可)
血清CrもしくはeGFR値 尿所見のみ
尿所見と血清CrもしくはeGFR値 画像検査 腎生検の病理所見
- 6 初診患者の検尿は(複数回答可)
原則として実施する 高血圧や糖尿病の症例に実施する
糖尿病/高血圧症例以外で腎・尿路系疾患が疑われる場合に実施する
実施しない
- 7 再診時の検尿は(複数回答可)
CKD患者には実施する 高血圧や糖尿病患者には実施する 行わない
- 8 尿検査にくわえて尿蛋白の定量は
随時尿で蛋白/gCr値を測定する 24時間蓄尿も実施する
実施していない
- 9 糖尿病早期腎症が疑われる患者に対する尿中アルブミン測定は
3か月に一回程度実施する 半年から1年に一回程度実施する
測定したことがない
- 10 CKD患者に対する採血検査(血清Cr、電解質、血算など)
月に1回程度実施する 年に5~6回実施する 年に3~4回実施する
年に1~2回実施する 採血しない
- 11 日常の診療で患者指導する際、血清Cr値だけでなくeGFR値を
頻繁に使っている ときに使っている 使っていない
- 12 CKD患者の腎機能評価のために血清シスタチンCの採血は
頻繁に実施している 症例によってときに実施している 実施していない
- 13 CKD患者の血圧測定について
来院時に測定し評価している 来院時血圧と家庭血圧の両方評価している
あまり実施しない
- 14 高血圧合併CKD患者に対する降圧治療でRA系阻害薬であるACE阻害薬や
 アンギオテンシン受容体拮抗薬(ARB)は(複数回答可)
第一選択である 尿蛋白陽性の症例に処方する あまり処方しない

- 15** RA系阻害薬の中止に関しては(複数回答可)
腎機能保護を期待してできるだけ継続する 腎機能が悪化すれば中止する
血清Cr>2~3mg/dLで中止 血清K値上昇で中止 そもそも使用しない
- 16** 75歳未満で尿蛋白陽性の高血圧合併CKD患者の血圧管理の目安は
個別化している <130/80mmHg <140/90mmHg
<150/90mmHg
- 17** ESA(赤血球造血刺激因子)製剤は
独自の判断で開始する 専門医の指示で開始する
自院では使用していない
- 18** ESA製剤を用いて腎性貧血の治療を行う場合の目標Hb値は
個別化している >9.0g/dL >10g/dL >11g/dL

第三部 CKD診療における地域連携、病診連携について

- 1** 地域でのCKDに関する地域連携は
ほぼ機能している ある程度機能している あまり機能していない
- 2** 地域で開催されるCKD関連の勉強会/講演会に
たいてい参加する ときどき参加する あまり参加しない
機会がない
- 3** 患者を紹介する腎臓専門医は
複数いる 一人はいる すぐには思い浮かばない
- 4** 患者を紹介する腎臓専門医との関係について
頻繁に会い親しい 名前や顔ぐらひは知っている よく知らない
- 5** 腎臓専門医に患者紹介する事務手続き(予約や紹介)は
スムーズで面倒ではない やや面倒である かなり面倒である
- 6** 腎臓専門医との間にCKDの地域連携パス(連絡用の手帳等)は
専門医との連絡に活用している あるが利用していない
ない/知らない
- 7** 腎臓専門医への患者紹介の理由は(複数回答可)
高度蛋白尿(定性で2+以上または尿蛋白/gCr比が0.5g以上)
蛋白尿/血尿がともに陽性 eGFR<45(mL/分/1.73m²)
急激な腎機能低下 浮腫など自覚症状の悪化
血圧管理、血糖管理の悪化 一定間隔で紹介
- 8** 紹介する患者の多いGFR区分(mL/分/1.73m²)は(複数回答可)
G1(GFR≥90) G2(GFR60~89) G3a(GFR45~59)
G3b(GFR30~44) G4(GFR15~29) G5(GFR<15)

- 9** 「CKD診療ガイドライン2018」に掲載されている「かかりつけ医から腎臓専門医・専門医療機関への紹介基準」(別表)について
- 各症例の検査結果と照らし合わせて活用している ときに活用している
知っているがあまり参考にしていない 自院で対応している 知らない
- 10** かかりつけ医として腎臓専門医に期待することは(複数回答可)
- 治療法や処方内容の適否確認 自覚症状(浮腫など)の改善
血清Crの改善 腎生検による病理学的評価 腎・尿路系の画像診断
医師からの患者指導 看護師や管理栄養士による食事栄養指導
服薬指導 透析や腎移植の説明
- 11** 腎臓専門医の対応、紹介への返答に
- 大変満足している 満足できる 普通 やや不満 大いに不満
- 12** かかりつけ医から腎臓専門医に紹介することのメリットを
- 強く感じる ときに感じる あまり感じない 全く感じない
- 13** 腎臓専門医の対応ぶりに不満があるとすればどのような点について(複数回答可)
- 患者指導、説明が不十分 かかりつけ医への説明、連絡が不十分
紹介してもあまり治療に変化がない 服薬指導、食事栄養指導が不十分
- 14** 専門医療機関での腎臓病教育入院があれば利用しますか。
- 積極的に利用したい 必要に応じて利用したい 利用したくない
- 15** 専門医療機関での腎臓病教室があれば患者に参加を勧めますか。
- 積極的に勧める 必要に応じて勧める 勧めない
- 16** 先生の地域での特定健康診査(特定健診)には血清Cr値の項目は
- 含まれている 含まれていない 知らない
- 17** 特定保健指導において保健師によるCKDに関する指導は
- 行われている 行われていない 知らない
- 18** 地域における糖尿病性腎症重症化予防プログラムについて
- 積極的に協力したい 内容を検討してから考える
あまり協力したくない 地域で予防プログラムが整備されていない
- 19** 糖尿病患者の血糖管理や腎症を含む合併症管理について地域の保健師から保健指導の申し出があれば
- 全面的に協力する 症例によっては協力する
自院で指導するので必要ない